

今年度の研究・活動報告と次年度の研究・活動計画

土屋仁美(金沢星稜大学)

1 2020 年度の研究・活動報告

- ・「食品安全分野における過程管理アプローチへの移行——民間規格の役割と公的規制の重要性」法学志林 118 巻 1 号(2020 年)69-102 頁

本稿では、EU 食品分野における議論を参考に、食品安全分野における過程管理アプローチの優位性と民間規格の発展の要因について明らかにしたうえで、市場における民間食品規格の機能である「リスク管理」と「製品の差別化」の観点から、食品安全分野における民間規格の位置づけと、公的規制の必要性について考察した。憲法 13 条に基づく生命権と健康権に基づく食品の安全性の充実・強化には、個々の事業者の取組みだけではなく、公的機関による監視や検査の充実が必要であり、食品の規制範囲の拡大や安全基準の厳格化が不可欠であることを明らかにした。

- ・「ふるさと納税における返礼品競争の要因と問題点」金沢星稜大学論集 53 巻 2 号(2020 年)29-39 頁

本稿では、ふるさと納税における返礼品に焦点を当て、制度の定着と拡大における返礼品の影響を明らかにしたうえで、ふるさと納税において返礼品競争が過熱した要因と、憲法上の論点として、地方自治の本旨からみた問題点について考察した。ふるさと納税の問題の本質は、一部の地方自治体による過度な返礼品競争にあるのではなく、制度そのものにあることを明らかにした。

2 2021 年度の研究・活動計画

- ・「食品安全分野の過程管理アプローチにおける柔軟性措置と食文化の保護(仮)」

伝統的な特徴を有する食品に焦点を当てて、食品安全分野の過程管理アプローチにおける柔軟性と公的機関の役割について考察する。

- ・「主要農作物種子法廃止による食品の安全性への懸念——市場原理に基づく品質確保の問題点(仮)」

主要農作物種子法廃止の目的である市場原理による品質保証の問題点について、市場メカニズムの活用とその限界を考察し、食品安全分野における公的規制の必要性について明らかにする。